

3月の銅マーケットレポート及び4月の見通し(下)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予想レンジ

LMEセツル	4600-5000ドル
	♣ 変わらず
建値	550-620円
	♣ 変わらず
為替	109~115円 (1か月間TTM)
	☂ 円高

黄銅棒が3カ月連続でプラスに転じ、1万5千t台を回復、輸出もマイナス幅が5.6%減と大幅減少、今後の回復が望まれる。

・電線 輸出が8カ月連続二桁減少の-33.1%。内需も減少の-1.1%

・銅輸出は生産減少による国内玉の需要減から地金、スクラップ共に大幅増加

・銅輸入は、生産減少による国内玉の需要減から地金は減少スクラップは内需の発生難から増加した。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、銅建値が57万から一時61万まで上昇したことから売られ流通在庫はほとんどないのではないかと

また引き続きほとんどの分野で生産減の現象が続いており発生難の状況が続いている。

新年度入りからある程度の需要が予測され需給はひっ迫するのではないかと

【価格・為替予想】

今月は、4月17日開催のドーハー原油会議、米利上げ問題に左右される。

4月17日のドーハー原油会議に関しては、クウェートの石油相が2014年秋以降、操業を停止していた油田について、共同操業するサウジアラビアと再開することで合意したとのコメントや、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べたなど強弱材料が入りこむ中 最新ではクウェート当局者の発言として「イラン抜きでも増産凍結で合意できる」などと報じ、クウェートでは石油相も「年後半には原油相場の需給のバランスがとれる」などと述べたことから条件付きでの増産凍結になる可能性が高いのではないかと。

米利上げ問題に関しては、セントルイス連銀のブロード総裁が4月の利上げの可能性を示唆したことを初め、複数の米金融当局者が4月利上げの可能性に言及しているが、2月の米貿易赤字は470.6億ドルに拡大、予想は462億ドルだったことを考えれば4月の利上げはないのではないかと。

※平成28年4月20日掲載の記事の続きとなっております。

【伸銅品生産】

伸銅品生産 前年比-0.1%の6万5760t 12カ月連続マイナス

内需 5万5030t +1% 16カ月振りプラス

輸出 1万730t -5.6% 11カ月連続マイナス

銅条 20,022t -4.2% 9カ月連続マイナス

黄銅棒 1万5803t +5.3% 4カ月連続プラス

底入れの兆し?

【電線】

前年比-2.6%の5万8300t

うち 国内 -1.1% 輸出が -33.1%。

通信 -22.6%、電力 +6.5% 電気機械 -6.3% 自動車 -6.4%

建設電販-2.2% その他内需-1.9%

【輸出】

電気銅輸出が前年比+36.4%の5万8604t。

銅スクラップは+96, 4%の1万8715t。

【輸入】

電気銅が-68.2%の1859t。

スクラップは+39.8%の8423t。

【見通し】

・自動車は生産が-6.9%。2月の国内販売台数が前年比-3.2%

生産が3カ月連続マイナス、販売が2カ月連続マイナス。

生産が連続減少となった。販売の方も2カ月連続マイナスに。

新年度入り後の動向に注目

・住宅着工の動向については、平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、ここのところ横ばいの傾向となっていたが、2月は前年同月比で2か月連続の増加となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・伸銅品 12カ月連続マイナスの前年比-0.1%。

需要の多い銅条が、9カ月連続マイナス。黄銅棒が4カ月連続プラス、輸出も前月に続き減少が続く11カ月連続マイナス。

アルミスクラップ問屋
限りある資源未来の為に
リサイクル

小林金属商会

代表取締役 黒寄 篤幸

〒157 東京都世田谷区宇奈根1丁目6番1号
-0068

電話 (03)3415-5515(代)

FAX (03)3415-5514

それらを踏まえた4月の銅価格は、米利上げが先送りされ、原油の増産凍結合意が行われた場合、3月高値の一段高5000ドルを予測。いずれかの場合は4800ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合3月もう一段安値の4600ドル。

為替は、先月日本が先のG20で為替介入に関して、自制を求めるように釘を刺された事から介入は難しが、米経済指標の悪化、原油下落による商品価格の下落などから円に逃避資金が集まる可能

性が高い。

それらを踏まえ予測は

上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、原油価格が下落した場合安全資産の円買いから109円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などを行い、原油の増産凍結により価格が安定した場合115円を予測。

銅建値に関しては550-620円程度と予測している。

銅建値は2万円引き上げの59万円、 月内建値平均は57万7,000円。

JX金属は20日、電気銅建値を2万円引き上げの59万円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は57万7,000円。

20日入電のLME銅相場のセツルメントが4812.00ドル、同日発表のTTSレート110.20円で、換算した採算価格は、53万200円となり、建値と採算価格から見た諸掛りは5万9,800円。

直近6か月の建値推移は次の通り。(キロ当たり円、カッコ内は改訂日)

・2015年
11月=670(2) 660(6) 650(12) 630(18) 600(24)
平均638.3

12月=610(1) 600(16) 620(22)

平均610.0

・2016年

1月=610(4) 590(7) 560(13) 550(18) 570(22)
580(27) 平均575.2

2月=600(1) 590(4) 580(9) 550(15) 570(18)
平均576.0

3月=570(1) 600(4) 610(14)
平均601.8

4月=590(1) 570(6) 550(11) 570(14) 590(20)
平均577.0

黄銅削粉14円引き上げの422円に。

関西の黄銅棒大手N社と三菱伸銅は20日、14円引き上げの422円にすると発表した。

亜鉛建値は6,000円引き上げの26万2,000円、 月内建値平均は25万4,100円。

三井金属鉱業は20日、電気亜鉛建値を6,000円引き上げの26万2,000円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は25万4,100円。

20日入電のLME亜鉛相場のセツルメントが1902.00ドル、同日発表のTTSレート110.20円で換算した採算価格は20万9,600円となり、建値と採算価格から見た諸掛かりは5万2,400円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り。(単位キロ当たり円、カッコ内は改定日)

・2015年
11月=253(2) 250(6) 244(11) 238(18)
平均243.8

12月=241(1) 235(4) 232(17)
平均234.8

・2016年
1月=241(4) 229(7) 217(13) 220(19) 226(22)
平均226.0

2月=247(1) 250(4) 244(12) 238(17) 256(23)
平均247.8

3月=250(1) 259(4) 247(9) 256(14) 250(17)
262(23) 平均255.5

4月=253(1) 250(6) 238(11) 256(14) 262(20)
平均254.1

非鉄金属全般

銅 洋・新棒コロ

誠実対応の **高田商店**

代表者 高田才吉

〒544-0001 大阪市生野区新今里7丁目11-11

☎ 06-6753-1643

FAX 06-6753-4545